

中央教育審議会・教育振興基本計画部会ヒアリング

平成23年10月6日

# 総合型地域スポーツクラブ政策の現状と課題

筑波大学大学院人間総合科学研究科  
柳沢和雄

## 【教育行政の4つの方向性(案)】

社会を生き抜く力の養成

未来への飛躍を支える人材の養成

学びのセーフティネットの構築

絆づくりとコミュニティの再構築

～ 学習活動を媒介として多様な人が集い協働するための体制・ネットワークの形成など社会全体の教育力の強化や、個人が主体的に社会参画し相互に支え合うための環境を整備する。

# スポーツ立国戦略 - スポーツコミュニティ・ニッポン - (H22)

## 基本的な考え方

1.人(する人、観る人、支える(育てる))の重視

2.連携・協働の推進

- ・トップスポーツと地域スポーツの好循環の創出
- ・新しい公共の形成等による社会全体でスポーツを支える基盤の整備

## 戦略1 ライフステージに応じたスポーツ機会の創造

国民の誰もが、それぞれの体力や年齢、技術、興味・関心に応じて、いつでも、どこでも、いつまでもスポーツに親しむことができる生涯スポーツ社会を実現する。

その目標として、できるかぎり早期に、成人の週1回以上のスポーツ実施率が3人に2人(65パーセント程度)、成人の週3回以上のスポーツ実施率が3人に1人(30パーセント程度)となることを目指す。

豊かなスポーツライフを実現する基礎となる学校体育・運動部活動の充実を図る。

(1)総合型地域スポーツクラブを中心とした地域スポーツ環境の整備

2)「新しい公共」を担うコミュニティスポーツクラブの推進

### 戦略3 スポーツ界の連携・協働による「好循環」の創出

トップスポーツと地域スポーツの好循環を創出するため、広域市町村圏(全国300箇所程度)を目安として、拠点となる総合型クラブ(拠点クラブ)に引退後のトップアスリートなど優れた指導者を配置する。

学校と地域の連携を強化し、人材の好循環を図るため、学校体育・運動部活動で活用する地域のスポーツ人材の拡充を目指す。

### 戦略5 社会全体でスポーツを支える基盤の整備

地域スポーツ活動の推進により「新しい公共」の形成を促すとともに、国民のスポーツへの興味・関心を高めるための国民運動の展開や税制措置等により、社会全体でスポーツを支えるための基盤を整備する。

「(地域スポーツ環境の整備を進める)その際、これまでの行政による無償の公共サービスから脱却し、地域住民が出し合う会費や寄附によって自主的に運営されるNPO型のコミュニティスポーツクラブが主体となった「**新しい公共**」を形成することを進める。

「スポーツ立国戦略」

# スポーツ基本法の特徴 - 旧法との比較から - (H23)

1. 「スポーツ権」を明文化
2. 地域におけるスポーツの推進を打ち出し、その中核となる「地域スポーツクラブ」などが規定。  
「国及び地方公共団体は、国民がその興味又は関心に応じて身近にスポーツを親しむことができるよう、住民が主体的に運営するスポーツ団体(以下、「地域スポーツクラブ」という。)が行う地域におけるスポーツ振興のための事業への支援…)
3. 地域スポーツと競技スポーツの好循環の重要性が規定
4. プロ・アマチュアの区別無くスポーツ全体に通じた構成  
障害者への配慮や障害者スポーツ大会の規定
5. スポーツ団体の透明なガバナンス、紛争の迅速・適正な処理
6. 子どもの体力低下やドーピング等今日的課題について規定
7. 「スポーツ推進会議」等、政府全体で施策を推進

# 総合型地域スポーツクラブ構想

平成12年 スポーツ振興基本計画(文部科学省;平成18年改定)

## (1)生涯スポーツ社会の実現に向けた、地域におけるスポーツ環境の整備充実方策

国民の誰もが、それぞれの体力や年齢、技術、興味、目的に応じて、いつでも、どこでも、いつまでも スポーツに親しむことができる生涯スポーツ社会を実現する。

その目標として、できる限り早期に、成人の週1回以上のスポーツ実施率が二人に一人(50パーセント)となることを目指す。

2010年(平成22年)までに、全国各市区町村において少なくともひとつは総合型地域スポーツクラブを育成する。

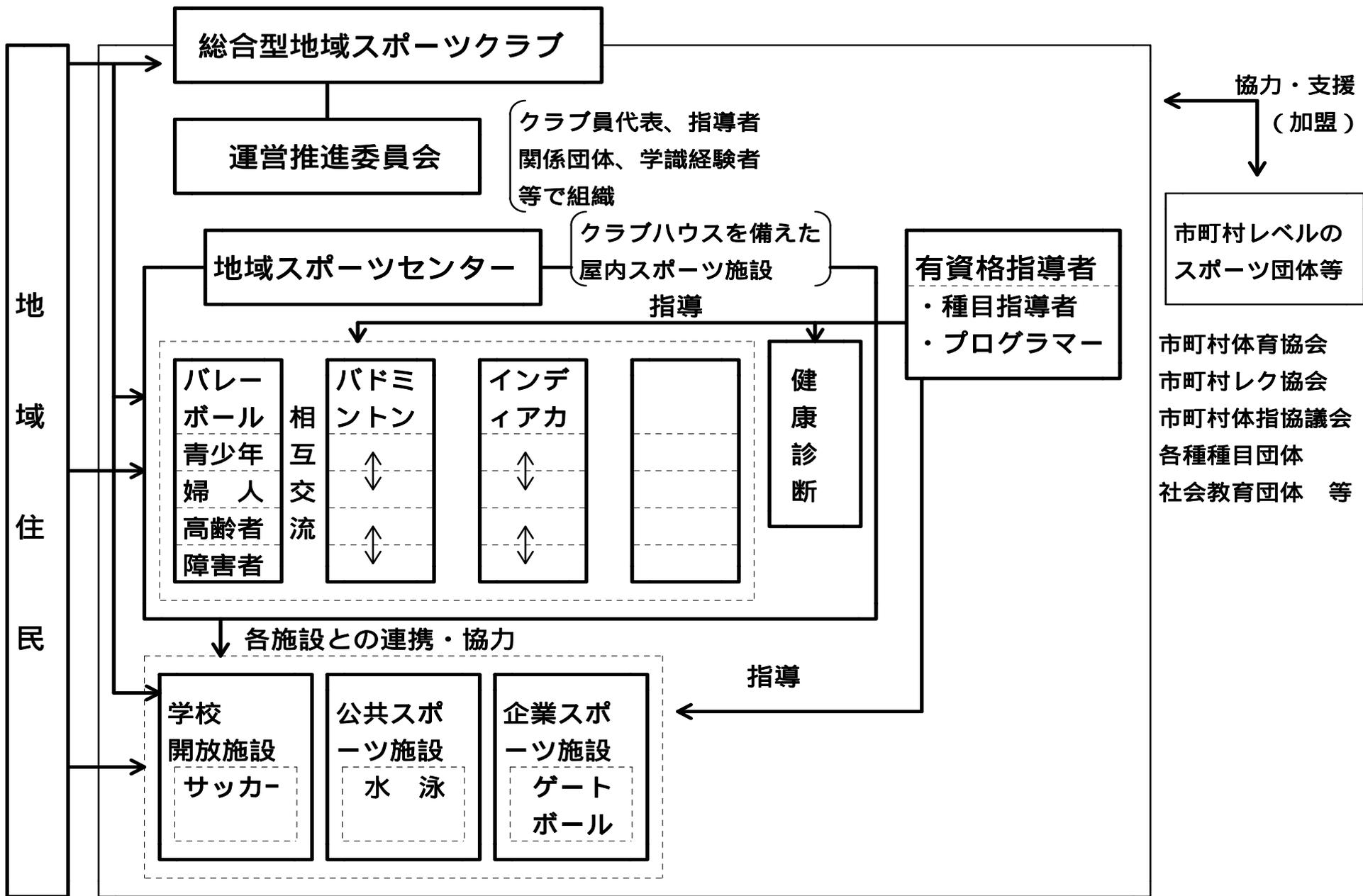
2010年(平成22年)までに、各都道府県において少なくともひとつは広域スポーツセンターを育成する。

「総合型地域スポーツクラブ」とは、地域住民が主体的に運営するスポーツクラブの形態である。我が国では、身近な生活圏である中学校区程度の地域において、学校体育施設や公共スポーツ施設を拠点としながら、地域の实情に応じて民間スポーツ施設も活用した、地域住民の誰もが、性別、年齢、障害の有無にかかわらず参加できる総合型地域スポーツクラブが定着することが適当と考えられる。特に学校体育施設は地域の最も身近なスポーツ施設であり、住民のスポーツ活動における期待は大きい。なお、総合型地域スポーツクラブを育成することは、完全学校週5日制時代における地域の子どもたちのスポーツ活動の受け皿の整備にもつながり、さらには地域の連帯意識の高揚、世代間交流等の地域社会の活性化や再生にも寄与するものである。

総合型地域スポーツクラブの特徴は、次のとおりである。

- ア 複数の種目が用意されている。
- イ 子どもから高齢者まで、初心者からトップレベルの競技者まで、地域の誰もが年齢、興味・関心、技術・技能レベル等に応じて、いつまでも活動できる。
- ウ 活動の拠点となるスポーツ施設及びクラブハウスがあり、定期的・継続的なスポーツ活動を行うことができる。
- エ 質の高い指導者の下、個々のスポーツニーズに応じたスポーツ指導が行われる。
- オ 以上について、地域住民が主体的に運営する。 (スポーツ振興基本計画)

# 総合型地域スポーツクラブ育成モデル事業(平成7年:文部省)

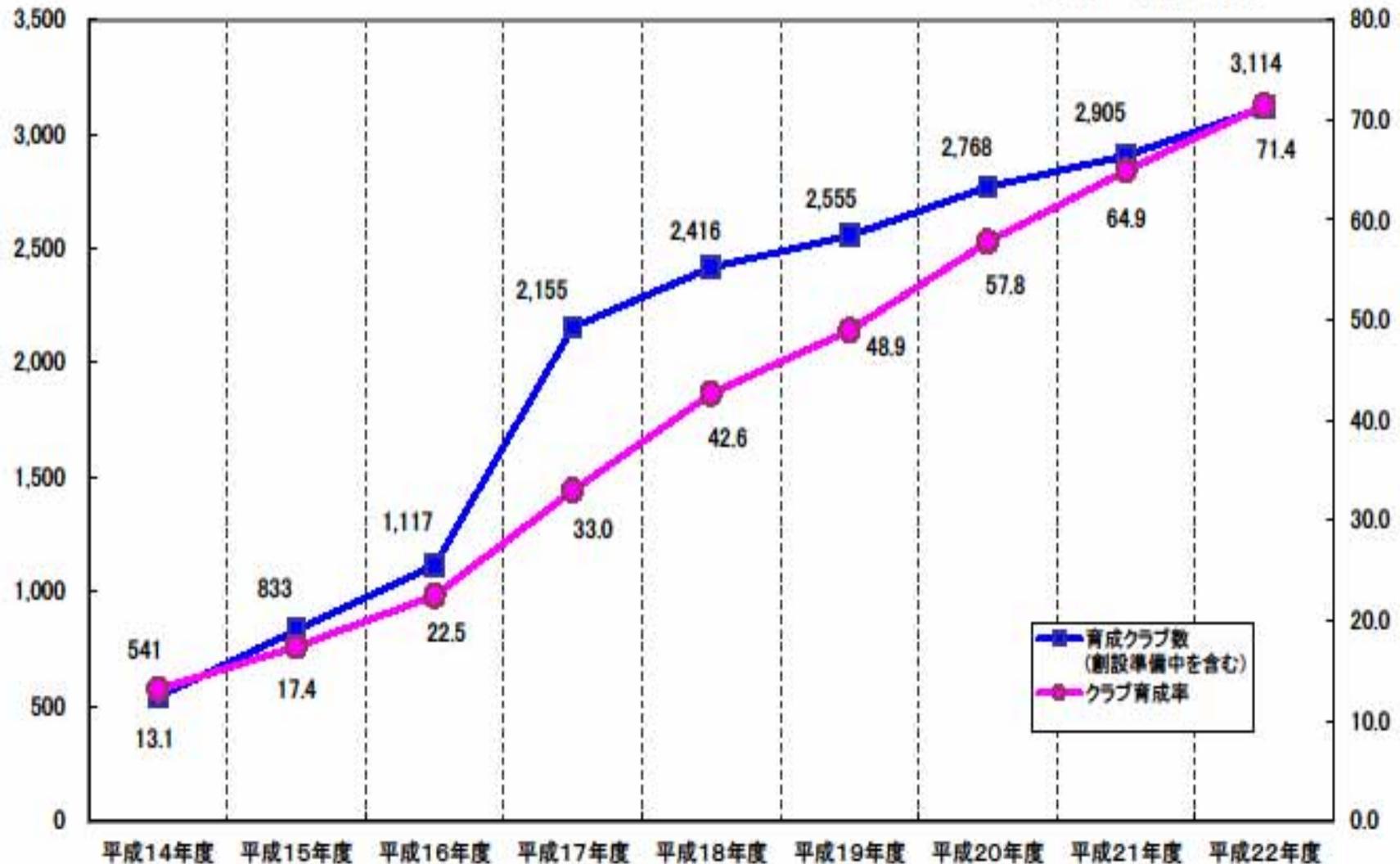


# 総合型地域スポーツクラブ育成状況推移(H14~22)

(クラブ数)

(育成率(%))

(平成22年7月1日現在)



# NPO法人かしまスポーツクラブ (茨城県鹿嶋市)



高松緑地 体育館

# 高松緑地公園施設案内図

※中間100mの地点に補助標識があります。



※スタートの前には準備運動をしましょう。  
※体の調子確かめましょう。

## 運動をはじめる前に

住友金属製鉄所の緩衝地帯に建設された総合運動施設を拠点に活動



市の介護長寿課より高齢者健康増進・機能訓練の事業も受託

## 平成21年度

**会員数** 約1,350人(個人年会費・10,000円)

<高松緑地施設延べ利用人数:120,898人>

**事業** エリアサービス(13種目)参加者数: 延べ20,891人  
(テニス、Gゴルフ、バレー、フットサル、スポチャン 等)

スポーツ・文化教室(34教室)

(ジュニア水泳、アクアウォーキング、キッズチアダンス 等)

イベント(13種類)

(ハイキング、Gゴルフ月例会、サマージェット、バレー、駅伝等)

介護長寿課受託事業(7事業:シニアプールメイト、運動指導教室)

文化スポーツ振興事業団(6教室;高齢者筋力トレ)

こども福祉課・生涯学習課(6事業:児童クラブ・放課後クラブ)

サークル事業(2サークル)

(よさこい、テニス)

指導者養成講習会(6講習会開催・参加)

(普通救命講習会、鹿嶋市スポーツコーディネーター養成 等)

## 平成21年度 収支決算

### <収入>

1. 会費	個人	3,650,525	
	ファミリー	1,239,900	+ その他
	(小計)	5,992,975	
2. 参加費	(小計)	4,153,022	
3. 補助金	市補助金	591,500	鹿嶋市、体協
及び	指定管理	45,081,050	
		9,880,000	
受託金	児童クラブ	12,115,709	
	介護長寿課	2,675,400	高齢者健康事業
	文化・スポ事業団	1,577,100	介護予防
	放課後教室	4,124,928	児童クラブ運営
	新浜窓口受付	3,036,000	
	(小計)	78,490,187	
4. 諸収入		553,808	
5. 繰越金		40,051	
		66,379	
<合計>		79,110,374	

# NPO法人くちくまのクラブ (和歌山県上富田町)

## 1、趣旨

### 【地域の教育力】

昔は、地域の中で様々な事を学び、地域に見守られ、地域の一員として育ち、生活する中で、お互いの気持を大事にする心を養ってきました。しかし、近年、個人主義化による地域コミュニティの崩壊等により、地域の繋がりによる教え、いわゆる地域の教育力が低下してきています。

また、スポーツをしない子どもが増加し、それに伴う、子どもの体力低下が問題になっています。スポーツをしない子どもたちは、単に体を動かすことが嫌いという理由だけでなく、スポーツをする機会がなかったり、自分に合うスポーツがわからなかったり、スポーツ少年団への垣根が高かったりといういくつかの理由が挙げられます。

このような背景から、教育や生涯学習など、さまざまな分野におけるスポーツの普及を通して、みんながスポーツを楽しめる環境を充実させることが、地域の様々な社会問題の解決に寄与する可能性があるものとして望まれています。

近年、総合型地域スポーツクラブの普及は、幼児から高齢者まで、それぞれの体力や年齢・技術・趣味・目的・ライフスタイルに応じて、「いつでも、どこでも、だれでも、いつまでも」スポーツに親しむことができる環境を目指し、その活動の中で、人づくりや地域づくりに寄与しています。

## JR紀勢本線「朝来」駅の駅舎がクラブハウス



# 向陽スポーツ・文化クラブ (東京都杉並区)

## 2. 主旨

向陽スポーツ文化クラブは、向陽中のプール開放に端を発し、地域の子供達の健全な育成を願う人々の純粋な心から生まれた団体です。クラブは向陽中学校と近隣の小学校3校の開放をうけて各種のスポーツ文化活動を行っていますが、参加費の一部は地域の小、中、高生のための諸活動など青少年の育成のために使われています。

入会者は自らの健康の保持と、文化の向上及び親睦を目指すとともに、子供達のために多少の持てる力をさいて、会の運営にご協力くださるようお願いいたします。

## 3. あゆみ

はじまり = 1975年(昭和50年)当時の校長から「夏休みに空いている学校のプールをPTAの手で地域の子供や大人に開放してみないか」と声をかけられPTAの中に「プール開放実行委員会準備会」を結成して「プール開放」を実現。

### 向陽スポ - ツクラブの成立。

1979年(昭和54年)向陽スポ - ツ文化クラブと改称、クラブハウス完成。向陽中学校の校庭に杉並区立の「クラブハウス」が完成し、ここを拠点に文化部も生まれ、名称も変更。クラブハウスの運営は「向陽スポ - ツ文化クラブ」が受託。



クラブハウス

水琴窟



# 総合型地域スポーツクラブの実態 (文部科学省.H23)

## クラブを設立したきっかけ

自治体からのすすめ	57.5%
母体となる活動から自主的に	24.7%
体育指導委員からのすすめ	17.4%
体育協会からのすすめ	14.8%

## 会費の実態

平均	520円 / 月
0 ~ 100円	29.4%
101 ~ 200円	21.0%
201 ~ 300円	14.8%
1001円 ~	11.4%

## クラブを設立するに当たっての課題

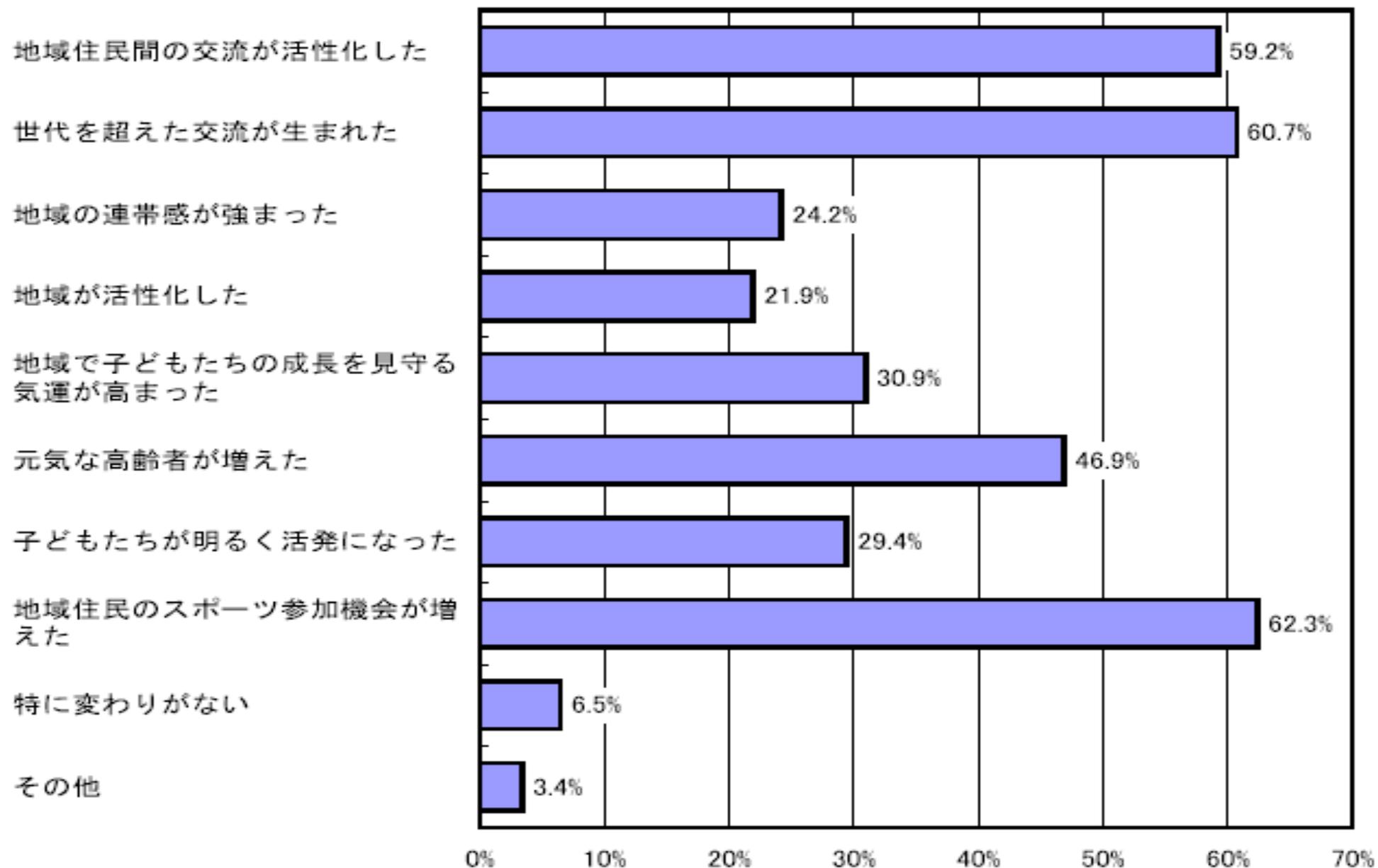
既存団体との調整	57.5%
会員の確保	57.0%
指導者の確保	48.1%
会費の設定	49.4%
準備委員会等の組織化	45.3%
財源の確保	44.9%
活動拠点の確保	31.0%
事務局員の確保	28.9%
行政との調整	23.8%
クラブマネジャーの確保	19.5%

## 謝金等の実態

スポーツ指導者	
全体平均	2,257円 / 回
有資格者	2,999円 / 回
無資格	1,516円 / 回
クラブマネジャー	
全体平均	5,319円 / 日
常勤	7,235円 / 日
非常勤	3,643円 / 日
事務局員	
全体平均	4,052円 / 日
常勤	5,965円 / 日
非常勤	2,731円 / 日

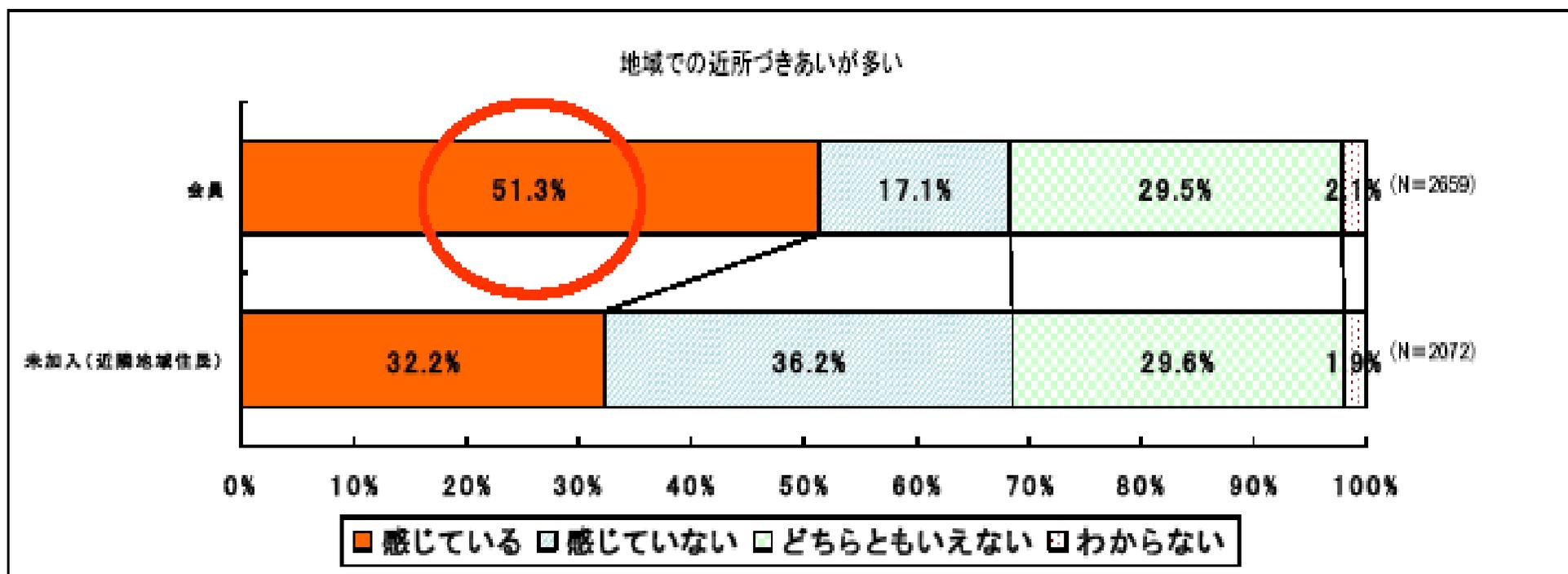
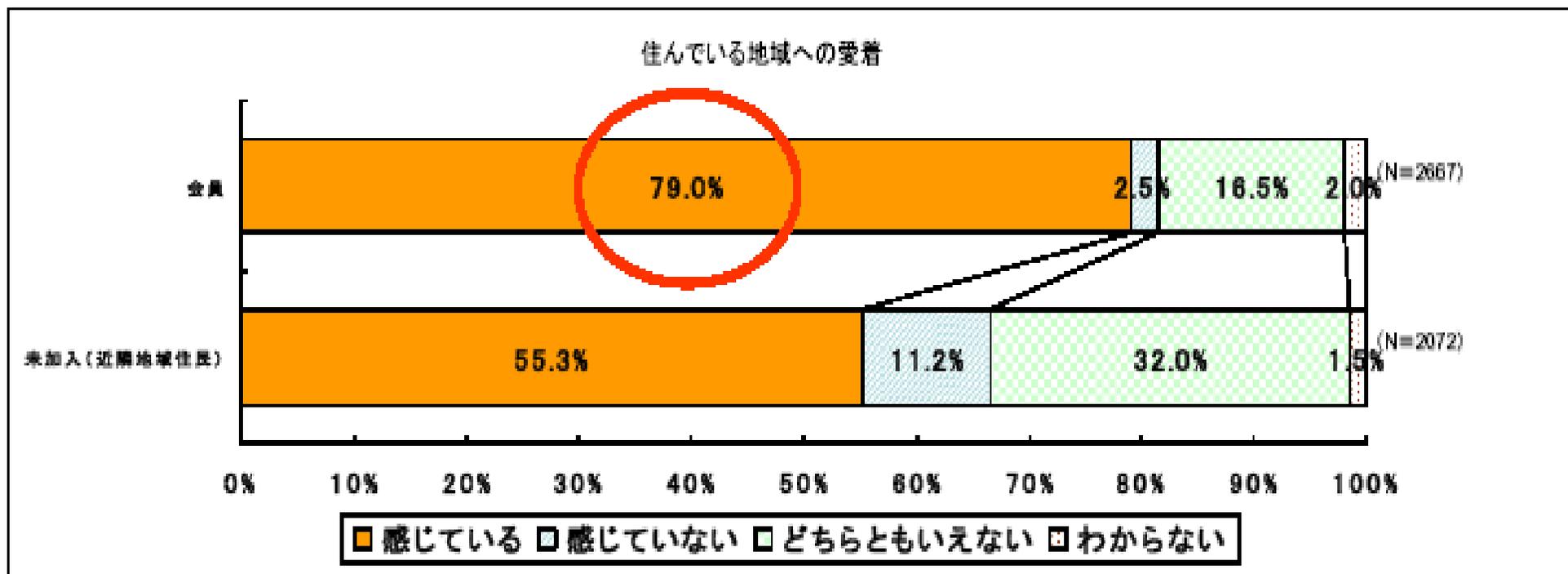
# 総合型クラブ設立の効果

N=2531



総合型地域スポーツクラブに関する実態調査結果(文部科学省:平成23年)

※複数回答



(出典)総合型クラブ設立効果に関する調査研究における「クラブ等調査」による集計(文科省委託調査:三菱総研)